

令和7年7月25日

豊田市議会

議長 北川 敏崇 様

産業建設委員会

委員長 近藤 厚司



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、豊田市議会委員会条例第37条第1項の規定により報告書を提出します。

記

- 1 派遣期間 令和7年7月15日（火）から7月17日（木）まで


- 2 派遣場所 7月15日（火）…宮城県仙台市／
及び内容 街路樹更新計画
7月16日（水）…千葉県香取郡神崎町／
スマート農業
7月17日（木）…神奈川県川崎市／
型紙を活用した新技術の景観舗装

- 3 派遣委員 委員長 近藤 厚司
副委員長 都築 清之
委員 小島 政直 羽根田利明 中村 孝浩
窪谷 文克 鈴木 孝英 中村 竹夫




- 4 報告書 視察報告書のとおり

- 5 その他 随行者／上田 研、船曳 泰地

視察報告書【1】

委員会名	産業建設委員会	委員名	近藤 厚司
視察日時	令和7年7月15日（火）午後1時30分～午後3時00分		
視察先・概要	宮城県仙台市 人口：1,094,530人(令和7.7.1現在) 面積：786.35km ²		
視察内容	街路樹更新計画		
選定理由	<p>仙台市の街路樹は、戦災復興としての植栽がされたほか、都市計画道路の整備の進捗に合わせた計画的な街路樹整備が進められてきた。一方で植栽後数十年以上が経過した街路樹は、様々な課題が顕在化している状況であり、10年間の街路樹更新に関する計画を定めた。仙台市の街路樹更新計画を参考にすることで、本市の市道や街並みに資するものとする。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市は、「豊田市緑の基本計画」を策定しており、5つの基本方針のうち、「つなげる」という分野で、効果的な街路樹の整備・管理を位置付けている。周辺土地利用と調和した道路空間を形成するために、それぞれの地域の景観に配慮した効果的な管理が求められている。</p>		
視察概要	<p>仙台市においては「杜の都」と言われるように、戦国時代より生活の中で緑を大切にする文化が育まれている。戦後の大規模区画整理を経て、公園および街道の緑化が進められ、現在は仙台市街路樹マネジメント方針を策定し街路樹をどのように管理するのか方針を定めている。また、仙台市街路樹更新計画を策定し、計画的な街路樹更新を進めている。</p>		
評価とその理由	<p>① 街路樹管理費の推移 H25までは街路樹の管理量は増加する一方、全体の管理費は年々削減されていた。H26年以降、管理費の底上げ及び物価変動への対応により年々予算を増やし、5億円程度であった予算は11億円程度まで確保している。</p> <p>② 高木と低木を分けた予算管理 街路樹の計画的な更新は10年計画で128路線、予算総額を37億円程度としている。 一方、高木の剪定および伐採、植替えは全体予算の3割程度と、7割程度から年々増加する低木管理から余った予算で進めざるを得ないため、十分な予算確保が難しい。</p>		
本市に反映できること	<p>① 高木のナンバリング 市内の公共空間にある高木を全てナンバリングし、一定の大きさ（幹周90cm以上）になったものは、5年に一回目視で確認し、不健全な場合は樹木医の診断を受けている。</p> <p>② 樹木の優先順位付け 高木だけではなく、今後は低木の更新計画を策定していく、とのこと。役割の希薄な植栽の撤去や大きく成長した低木の切り戻しを行うことで、量の適正化や管理コストの削減を進めていく。</p>		
その他 (意見・課題などあれば)			

視察報告書【2】

委員会名	産業建設委員会	委員名	近藤 厚司
視察日時	令和7年7月16日（水）午後1時30分～午後2時40分		
視察先・概要	千葉県香取郡神崎町 人口：5,616人(令和7.7.1現在) 面積：19.90km ²		
視察内容	神崎町スマート農業		
選定理由	神崎町では、後継者不足などにより担い手農家の受託面積が加速的に増えている。その対策として、スマート農機の導入だけでなく、作業の精密化や効率化など、様々な課題を克服している。本市においても、農業の環境負荷低減やスマート化に向けての農業者の新たな取組への支援事業において、神崎町のスマート農業を視察することで、産業分野等における事業の効果や課題等を学ぶこととする。		
豊田市の現状と課題	本市は、第4次豊田市農業基本計画を策定しており、農業者施策のうち、「生産」という分野で、「スマート農業・農業DXの推進」を位置付けている。本市が持続可能な農業の実現を推進するためにスマート農業の推進が求められている。		
視察概要	農事組合法人神崎東部は市内に7ある農事団体の一つであり、H26から「食味・収量コンバインの導入をきっかけに営農管理システム「K S A S」を取入れ、圃場管理をしている。 令和元年からのスマート農業の実証実験に参加し、①自動運転トラクタ②オートステア装置③GPS連動直線キープ田植え機④遠隔水管理システム⑤農業用マルチローター（ドローン）⑥食味・収量メッシュマップコンバイン⑦汎用ロボットコンバイン⑧K S A S乾燥システムを導入している。		
評価とその理由	① 圃場の集約および拡大 農業従事者の高齢化により管理できなくなる圃場を順次受け入れ、年々規模が拡大している。効率化を図るため1枚5反程度、最大で1.3町と平野部では大規模化できているが、山村地域では難しい。スマート農業導入による効率化と従業員の確保については、模索しているとのこと。 ② 食味・収量メッシュマップコンバインによる精密な収量分析 コンバインで刈り取りをする際に圃場を細分化して収量の分析が可能のため、一枚の圃場の中でも肥料追加など土壌改良を施し、全体的な収量増加につなげている。		
本市に反映できること	① 市による固定局GPSアンテナの運用 町役場の屋上に半径10kmのGPSアンテナを設置し、運用している。1契約で10台まで利用ができるプランを神崎町が契約しており、設置費用のほか、スマート機器購入などにも補助をしている。 ② GPS連動直線キープ田植え機の導入 同田植え機は後付けシステムも含め比較的導入しやすい。また、圃場を登録しておくことで同じルートを通ることができ、農薬を使わず機械で除草作業も可能であり、無農薬米を給食に提供している。		
その他 (意見・課題などあれば)	  		

視察報告書【3】

委員会名	産業建設委員会	委員名	近藤 厚司
視察日時	令和7年7月17日（木）午前10時00分～午前11時30分		
視察先・概要	神奈川県川崎市 人口：1,557,473人(令和7.6.1現在) 面積：144.35㎢		
視察内容	型紙を活用した新技術の景観舗装		
選定理由	川崎市では、型紙工法や、型押し工法などを活用して歩道の工事、景観舗装などを進めている。その中でも段差の解消や、誘導ブロックの設置など、バリアフリーにも配慮している。本市においても、豊田市駅前など多くのエリアを開発している。より機能性や、メンテナンス性を備えて、景観にも配慮した街並みにするため、川崎市の景観舗装を視察し、新技術を学ぶこととする。		
豊田市の現状と課題	本市は、「豊田市景観計画」を策定しており、産業の項目のうち、「道路」や「鉄道・駅」という分野で景観形成の基本方針を位置付けている。にぎわいと活気に満ちた景観を形成するために、市の顔にふさわしい質の高い市街地景観の形成が求められる。		
視察概要	川崎市武蔵小杉駅周辺は、2010年にJR横須賀線武蔵小杉駅開業以降、東京駅や新横浜駅へのアクセスの良さから交通結節点機能と駅周辺のポテンシャルが高まっている。 徒歩による移動を容易にする歩道整備に合わせ、市内では初となるステンシルボンド方式による歩道舗装を実施した。		
評価とその理由	<p>① 景観とバリアフリーを両立した手法 景観地区において歩道部分の意匠性を確保しつつ、目地部との段差が1mm程度と車いす通行などにおいて通行の妨げにならない。また、水路や支柱周りのコンクリート部などにも同様の施行を施すことで、高い意匠性を確保できている。</p> <p>② 修繕等メンテナンス時の優位性 ブロック積みやカラー舗装と比較して、経年後の修繕やメンテナンスにおいて材料の確保や作業時間などにおいて容易に修繕できる。また、当初工事においては専門業者が施行したが、作業内容自体は容易であるため、工事業者においても修繕可能と判断。</p>		
本市に反映できること	<p>① 施行場所を限定した導入 従来の平板ブロックやカラー舗装に比べ高価（平板ブロック舗装の1.7倍）であることは事実であり、使用箇所や目的、理由等を明確に整理する必要がある。 駅前ペDESTリアンデッキや、駅周辺の石畳などで既に部分的に修繕できていないような歩行者用通路、博物館等への道路標示を要す歩行者通路であれば、導入意義があると考えられる。</p> <p>② 作業の容易性 JRの改修、通路屋根の建築工事と、舗装土工事を同時並行で進める必要があったが、短期の人力での施行のため可能となった。</p>		
その他 (意見・課題 などあれば)	